

労働災害の現況

令和4年の概況

目次

1 労働災害の推移	……P1
2 月別の発生状況	……P2
3 業種別発生状況の推移	……P2
4 事故の型別発生状況の推移	……P3
5 起因物別発生状況の推移	……P3
6 事故の型・起因物別発生状況	……P4
7 年齢別発生状況	……P4
8 主要業種別経験年数別発生状況	……P5
9 主要業種別事故の型別発生状況	……P6
10 新型コロナウイルス感染症による発生状況	……P7



1 労働災害の推移

死傷者数は前年に比べ大幅に増加、死亡者数も増加

(1) 死傷者数

令和4年に発生した労働災害による休業4日以上死傷者数は、1,430人となり、令和3年よりも645人(82.2%)の増加となった。(労働者死傷病報告の集計による人数。以下同じ。)

しかしながら1,430人中新型コロナウイルス感染によるものは700人(49%)となっており、全国的にも確認された感染拡大の影響が顕著であった。なお、新型コロナウイルス関連を除いた死傷者数は730人となっており、前年から9人増加した。

表1 前年との対比

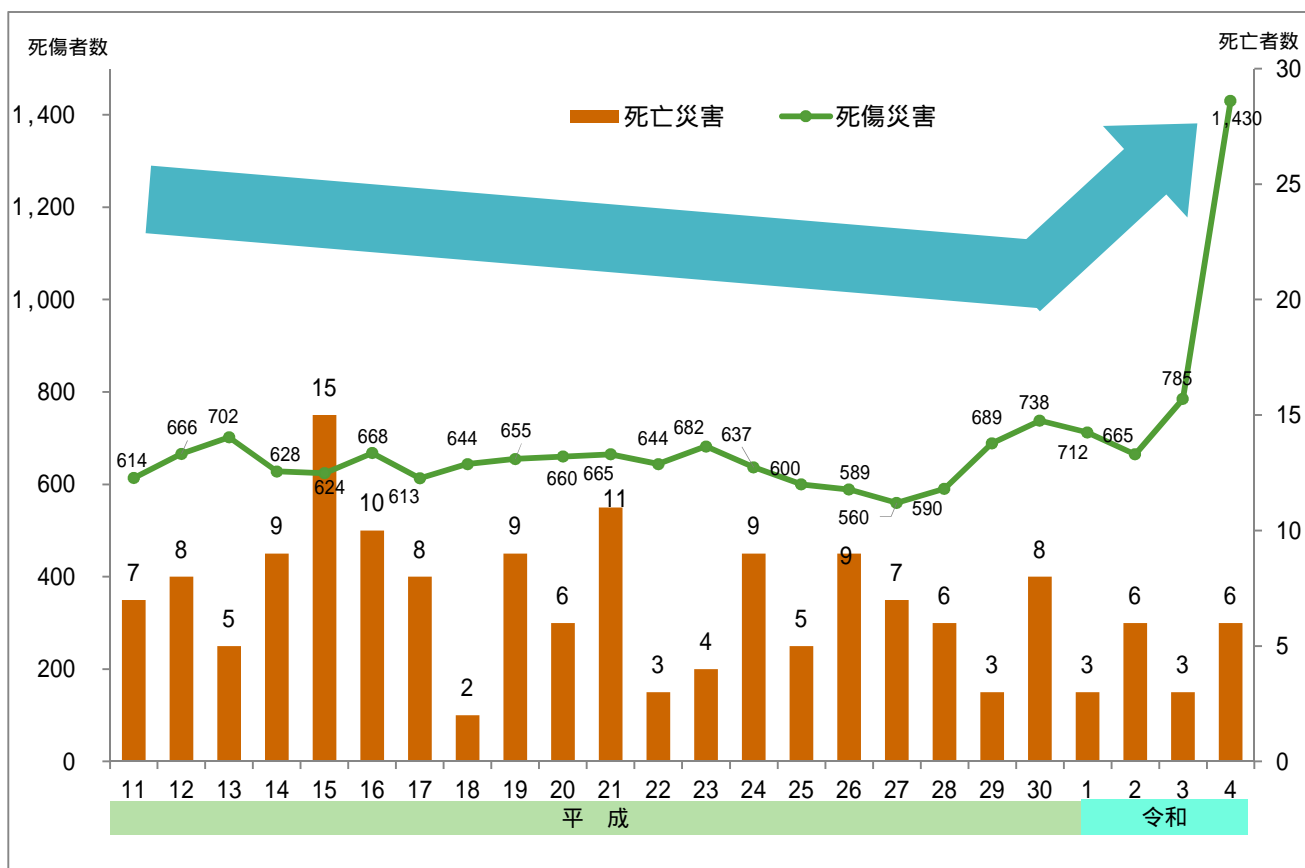
対象年	死傷者数 (休業4日以上)	前年との対比		* 死傷者数 (休業4日以上) 新型コロナウイルス関連除く
		増減	増減率(%)	
平成29年	689	99	16.8	689
平成30年	738	49	7.1	738
令和元年	712	26	3.5	712
令和2年	665	47	6.6	637
令和3年	785	120	18.0	721
令和4年	1,430	645	82.2	730

(2) 死亡者数

令和4年の労働災害による死亡者数は、前年の3人から3人増加して、6人となった。

業種別では、製造業と建設業が2人、商業、運送業で1人であり、災害の概要としては、設備に頭部を挟まれたもの、石材が倒壊し身体を挟まれたもの、建築工事において屋上で外観写真撮影中に墜落したもの、トラックに鉄骨を積載中鉄骨の下敷きになったもの、熱中症及び交通事故であった。

図1 年別労働災害発生状況の推移

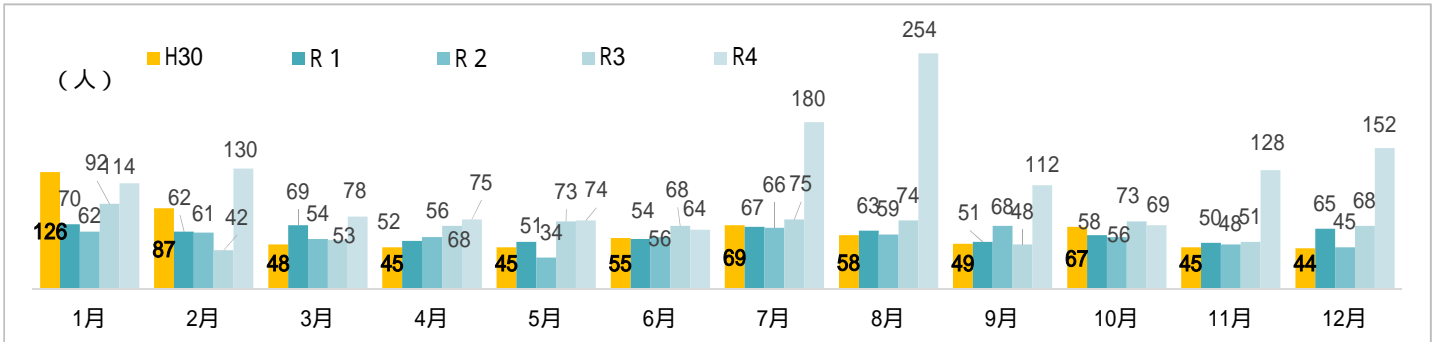


2 月別の発生状況

新型コロナウイルス感染拡大の影響が顕著

月別の発生状況では、冬季の凍結等の影響による転倒災害が多く発生している。また、新型コロナウイルス感染拡大の状況に比例して、死傷者数が増減している。

図2 月別労働災害発生状況の推移（年対比）



3 業種別発生状況の推移

製造業、運輸交通業で増加し、第三次産業では大幅に増加

(1) 製造業

死傷者数は156人(全産業に占める比率は10.9%)となり、前年と比べて20人、14.7%増加した。業種中分類で細分化すると食料品製造では39人(前年と比べて4人、9.3%減少)、一般機械器具製造では22人(前年と同数)、金属製品製造業では20人(前年に比べて1人、4.8%減少)、化学工業では9人(前年と比べて3人、50%増加)となった。

(2) 建設業

死傷者数は67人(全産業に占める比率は4.7%)となり、前年と比べて17人、20.2%減少した。業種中分類で細分化すると、建築工事で50人(前年と比べて5人、9.1%減少)、内木造家屋建築業は21人、土木工事で14人(前年と比べて4人、22.2%減少)となった。

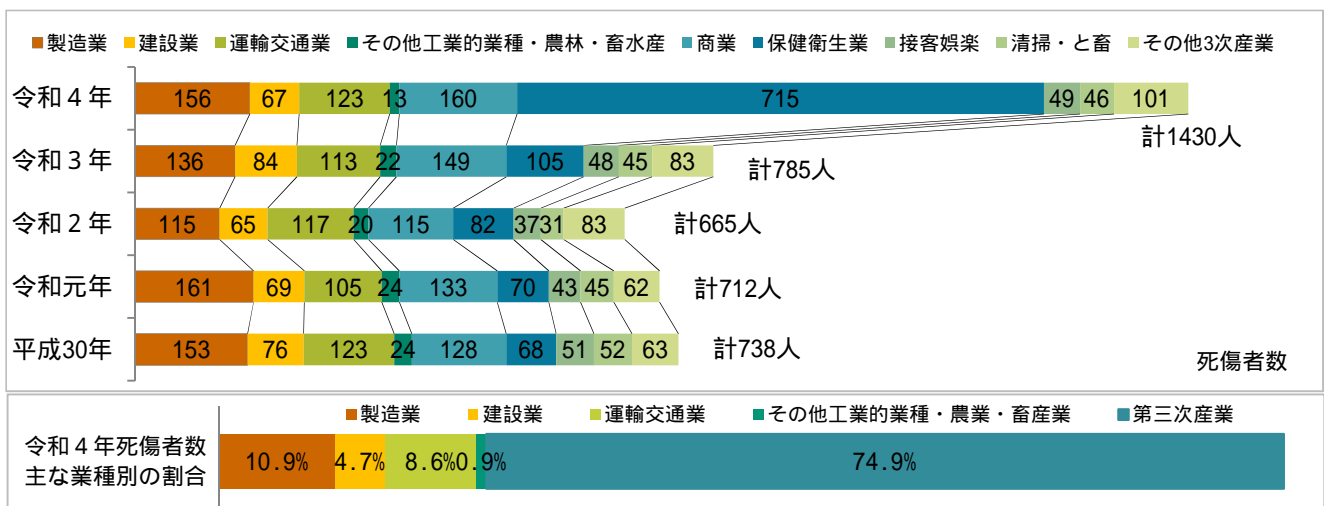
(3) 運輸交通業

死傷者数は123人(全産業に占める比率は8.6%)となり、前年と比べて10人、8.8%増加した。

(4) 第三次産業

死傷者数は1,071人となり、前年と比べて641人、149%増加した。全産業に占める第三次産業の死傷者数の割合は74.9%と過去5年間で最も高くなった。業種中分類で細分化すると商業で160人(前年と比べて11人、7.4%増加)、新型コロナウイルスの感染拡大により大きく増加した保健衛生業では715人(前年と比べて610人、581.0%増加)となった。なお、教育研究業でも27人(前年と比べて10人、58.8%増加)となった。

図3 業種別の発生状況の推移



4 事故の型別発生状況の推移

通路、環境を起因とする「転倒」、高所、階段等からの「墜落・転落」災害が増加

事故の型別では、通路、作業床等における「転倒」災害の死傷者数が208人(全体に占める比率14.5%)と比率は減少しているものの新型コロナウイルス感染によるものを除くと最も多い。次いで高所や階段等からの「墜落・転落」災害が161人(同11.3%)、腰痛等の「動作の反動・無理な動作」が78人(同5.5%)、「はさまれ・巻き込まれ」が61人(4.3%)となった。

また、転倒災害のうち通路に起因するものは149人で前年と比べ38人、34.2%と3年連続大幅増、環境(雪、凍結等)を起因とするものは、29人で前年と比べて22人、43.1%の減となった。

図4 事故の型別災害発生状況の推移

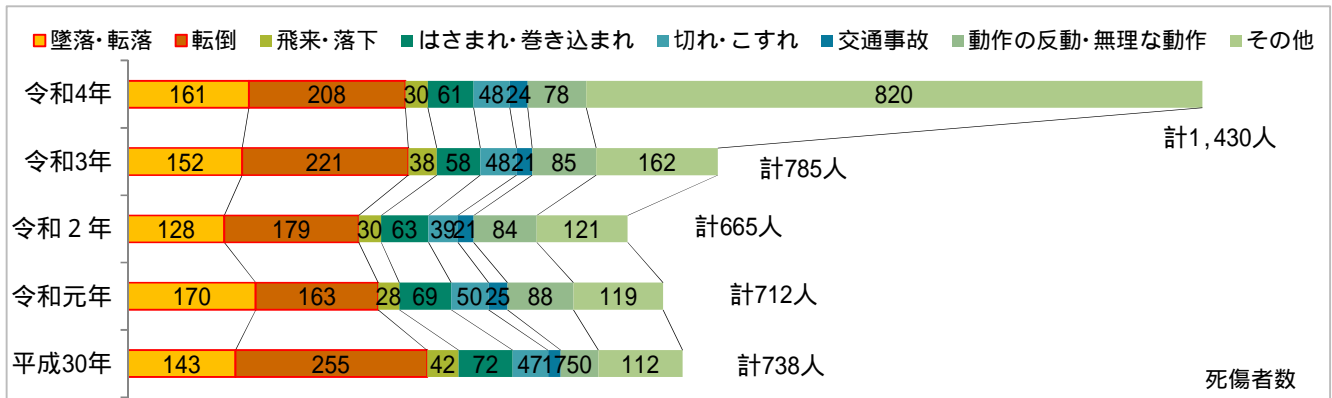
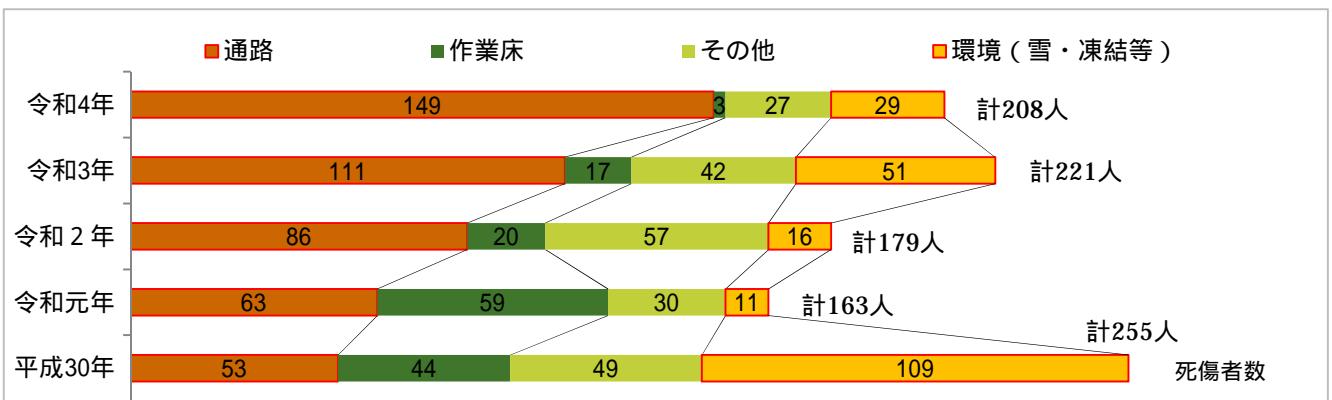


図5 転倒災害の起因物別の発生状況の推移

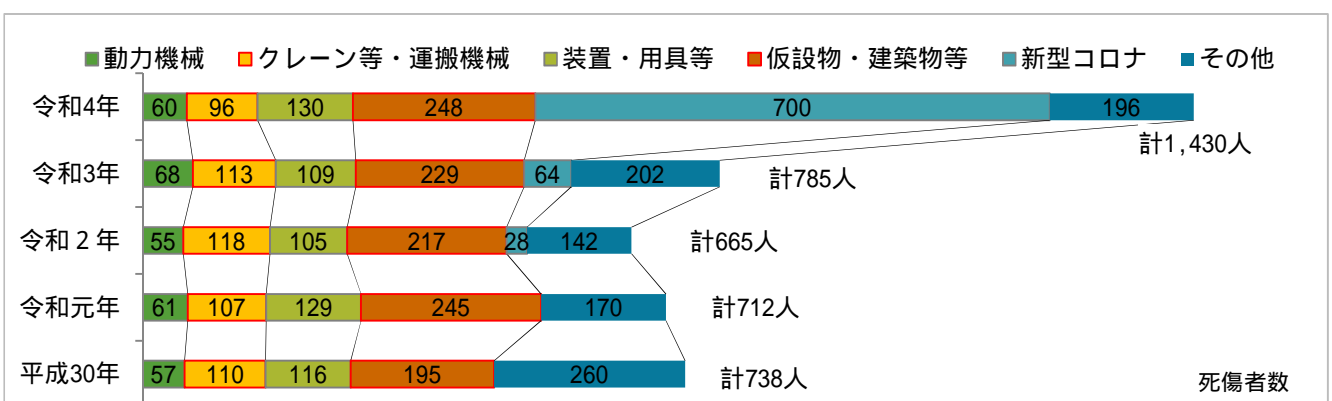


5 起因物別発生状況の推移

新型コロナウイルス感染症が急増し、仮設物・建築物に起因する災害が増加

起因物別では、新型コロナウイルス感染症が700人(前年と比べて636人、993.8%増加)と急増した。階段、通路、作業床等の「仮設物・建築物等」が248人(前年と比べて19人、8.3%増加)と次いで多く、はしご、人力運搬機、手工具を含む「装置・用具等」が130人(前年と比べて21人、19.3%増加)、クレーン、トラック、乗用車などを含む「クレーン等、運搬機械」が96人(前年と比べて17人、15.0%減少)となった。

図6 起因物別の発生状況の推移

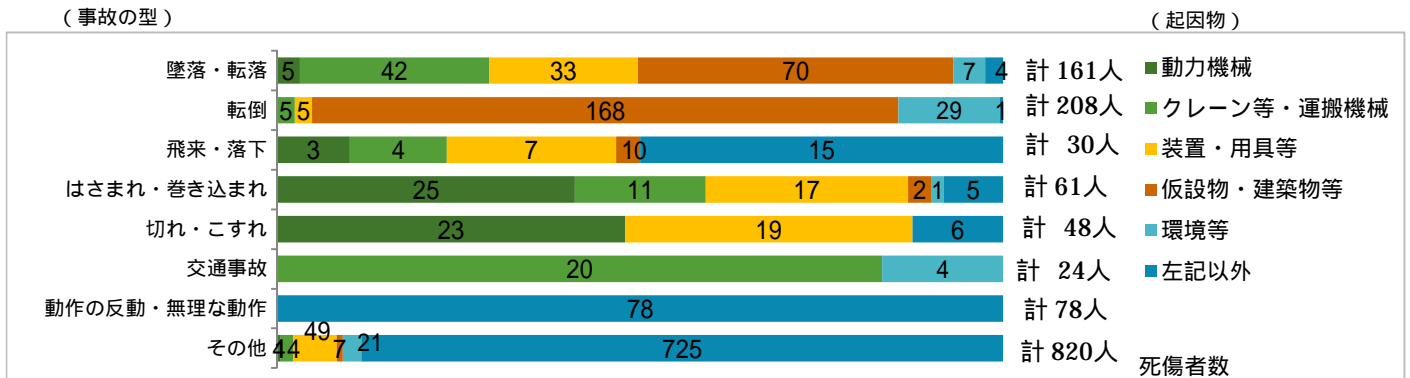


6 事故の型・起因物別発生状況

事故の型別・起因物別では、新型コロナウイルス感染症を除き、最も死傷者数が多い「転倒」災害では、作業床、通路などを含む「仮設物、建築物、構築物」に起因するものが168人となり、次いで多い「墜落・転落」災害でも「仮設物、建築物、構築物」に起因するものが70人となっている。この2つの事故の型の「仮設物、建築物、構築物」の合計は248人となり、コロナ関連を除く全体の比率は、34%を占める。

この他、「墜落・転落」災害のトラックを含む「動力運搬機」に起因するものが42人、はしご等の「装置・用具」が33人、「はさまれ・巻き込まれ」災害の各種機械を含む「動力機械」が25人、「切れ・こすれ」災害の各種機械を含む「動力機械」が23人となった。

図7 事故の型・起因物別発生状況、発生割合（100%積み上げグラフ）



7 年齢別発生状況

「50歳代」、「60歳以上」の死傷者数は、合計628人となり、前年と比べて205人、48.5%増加し、全体の43.9%となった。ただし、これは新型コロナウイルス感染症によるものが20歳代から40歳代に多く発生したことが影響している。なお、このような状況においても運輸交通業、商業、接客娯楽業、清掃・と畜業では、50歳以上の死傷者数の占める割合が50%を超えている。

図8 年齢別発生状況

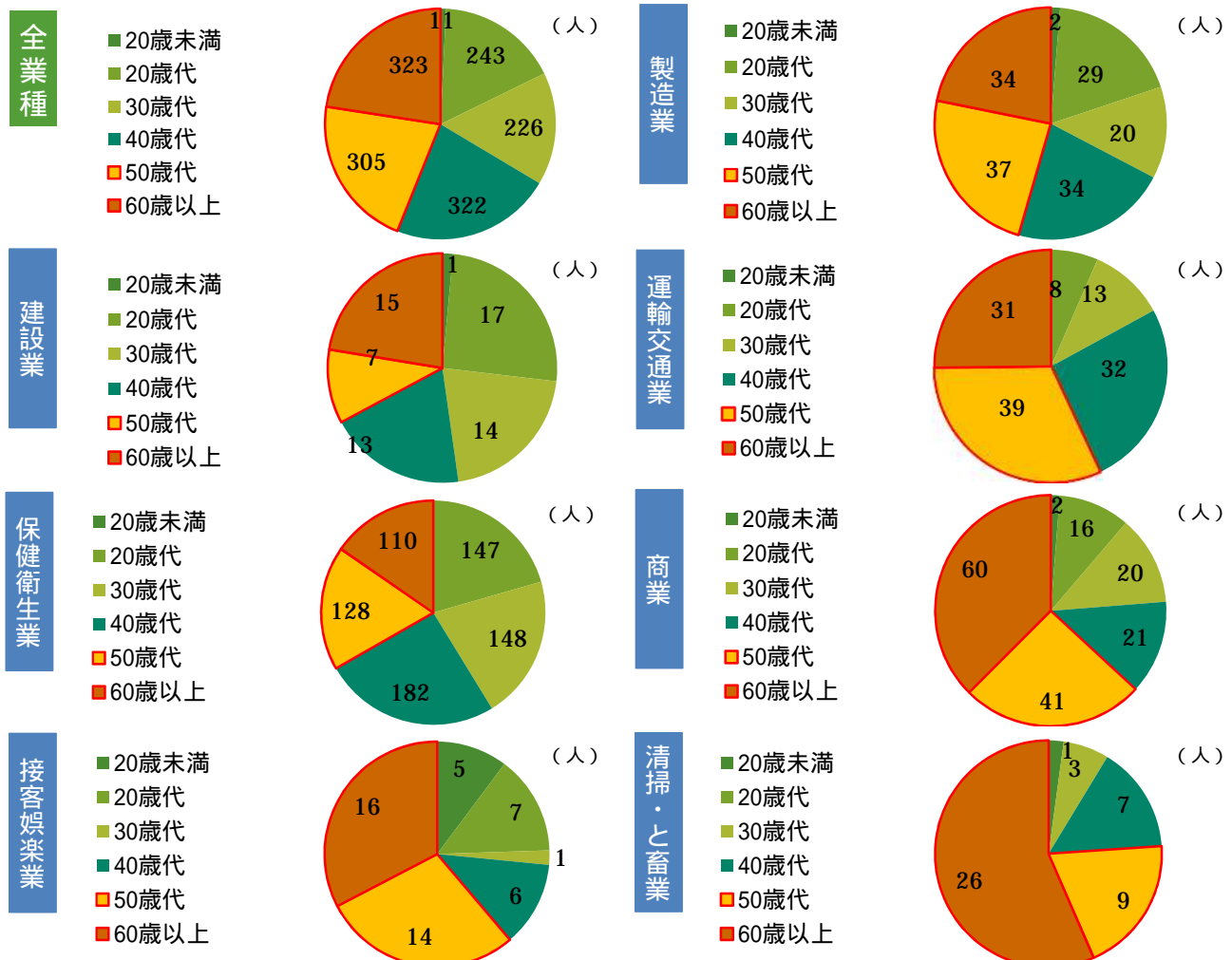
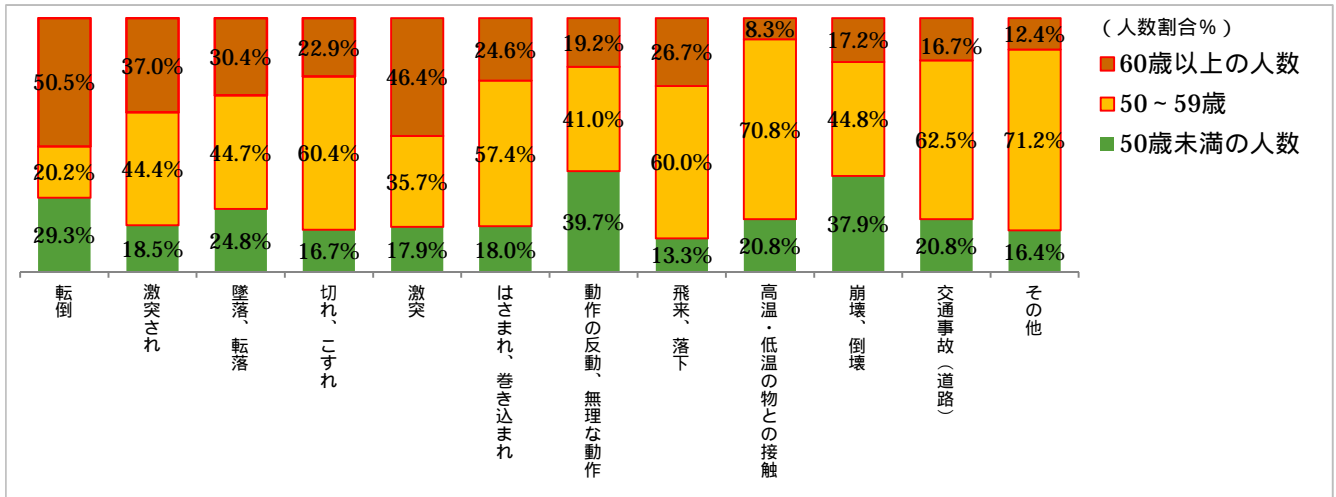


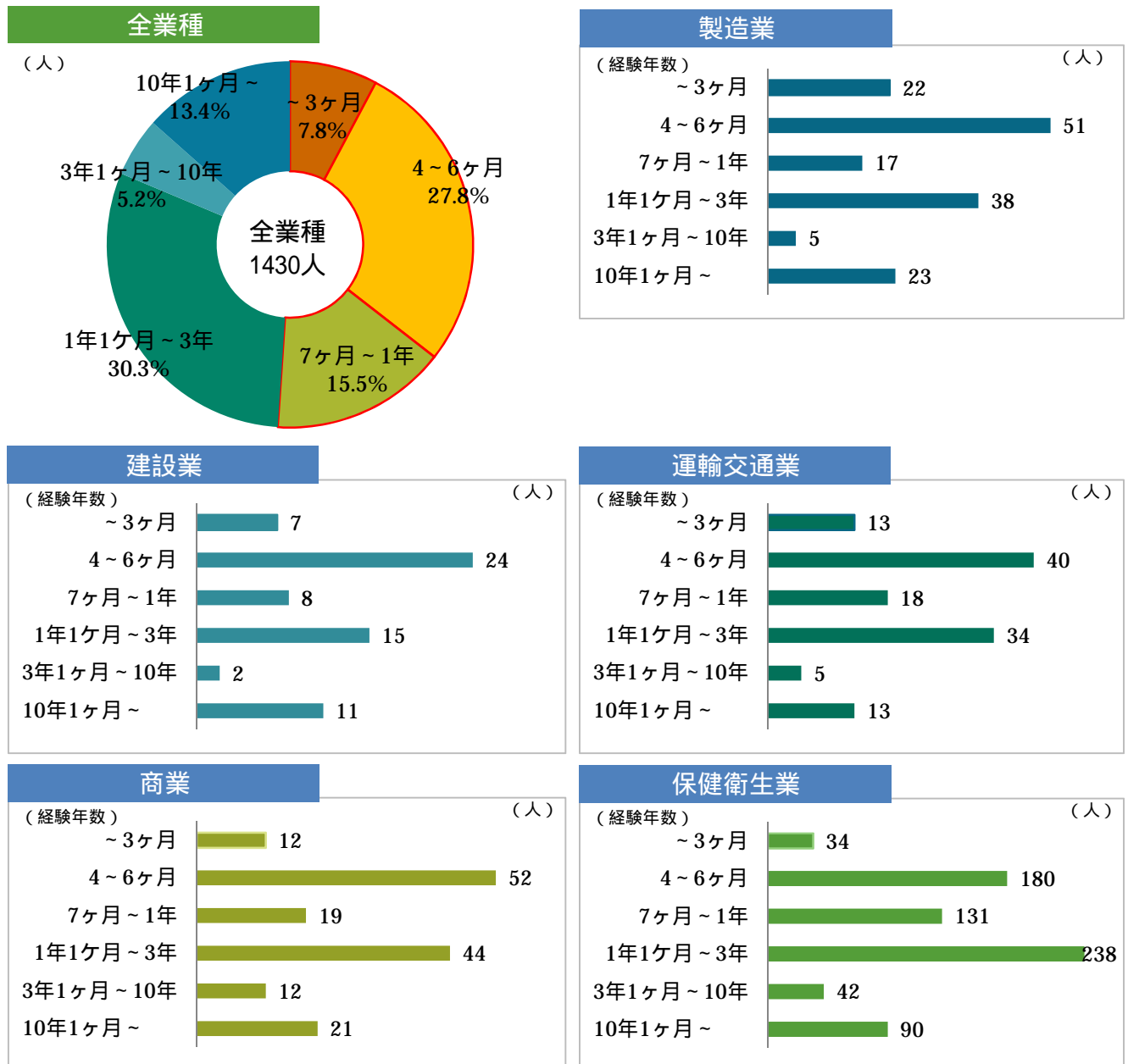
図9 事故の型別 全体に占める50歳以上の被災労働者数の割合



8 主要業種別経験年数別発生状況

経験年数別に見ると経験が1年以下の被災者数は、全体の51.1%を占めている。また、業種を問わず「4ヶ月以上6ヶ月以下」と「1年1ヶ月以上3年以下」の発生状況がほかの区分と比べて多くなっている。

図10 業種別 経験年数別の労働災害発生状況



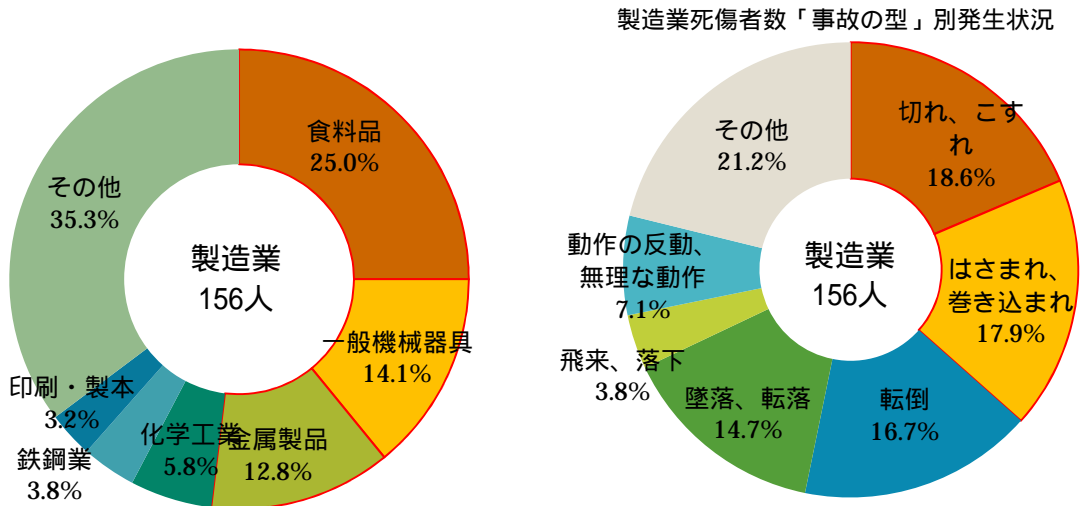
9 主要業種別事故の型別発生状況

製造業

製造業の小分類別では、食料品製造が前年よりも4人減少したものの39人（製造業に占める比率25.0%）と最も多かった。次いで、一般機械器具製造業が22人（同14.1%）、金属製品が20人（同12.8%）となっている。また、機械の点検中に機械に挟まれたもの及び石材の移動中に石材に挟まれた死亡災害が発生した。

事故の型別では、手工具や食品加工機械による「切れ・こすれ」災害が29人（製造業に占める比率18.6%）と最も多く、次いで動力機械等による「はさまれ・巻き込まれ」災害が28人（同17.9%）、作業床、通路等での「転倒」災害が26人（同16.7%）となっている。

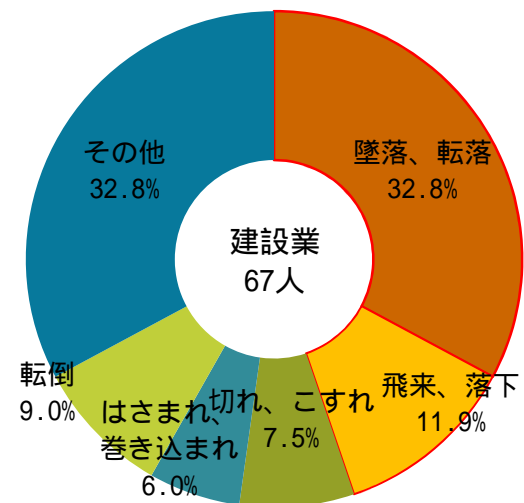
図11 製造業における労働災害発生状況



建設業

事故の型別では、高所等からの「墜落・転落」災害が22人（建設業に占める比率32.8%）と最も多く、次いで「飛来、落下」災害が8人（同11.9%）、「転倒」災害が6人（同9.0%）「切れ、こすれ」災害が5人（7.5%）「はさまれ・巻き込まれ」災害が4人（6.0%）となっている。また、建築工事において屋上で外観写真撮影中に墜落したものと熱中症による死亡災害が発生した。

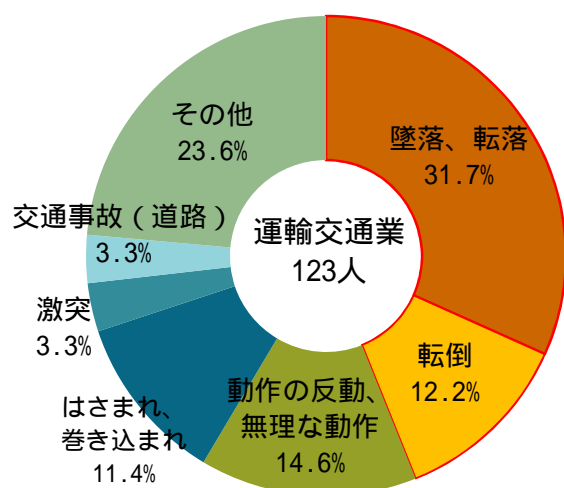
図12 建設業死傷者数「事故の型」別発生状況



運輸交通業

事故の型別では、トラック荷台等からの「墜落・転落」災害が39人（運輸交通業に占める比率31.7%）と最も多く、次いで、「動作の反動・無理な動作」災害が18人（14.6%）、通路、作業床に起因する「転倒」災害が15人（12.2%）、「はさまれ・巻き込まれ」災害が14人（11.4%）、「激突」災害が4人（3.3%）、「交通事故」災害が4人（3.3%）となっている。また、トラックに鉄骨を積載中鉄骨の下敷きになったものと交通事故による死亡災害が発生した。

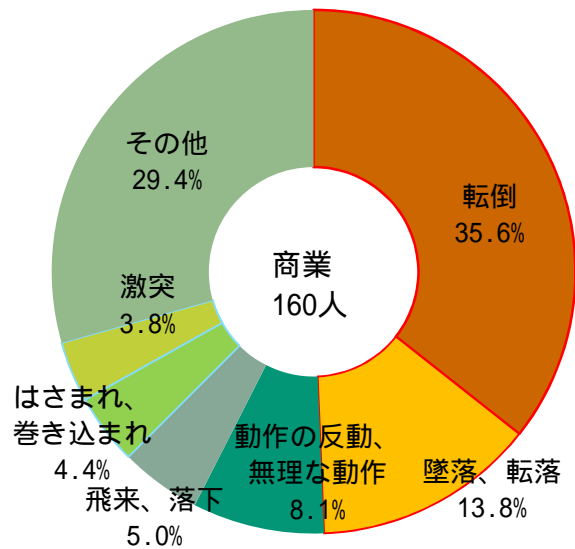
図13 運輸交通業死傷者数「事故の型」別発生状況



商業

事故の型別では、作業床、通路等に起因する「転倒」災害が57人(35.6%)と最も多く、次いで、階段、脚立、トラック等からの「墜落・転落」災害が22人(13.8%)、腰痛等の「動作の反動・無理な動作」災害が13人(8.1%)、クレーン等を用いた荷の運搬中に発生した「飛来、落下」災害が8人(5.0%)となっている。また、交通事故による死亡災害が発生した。

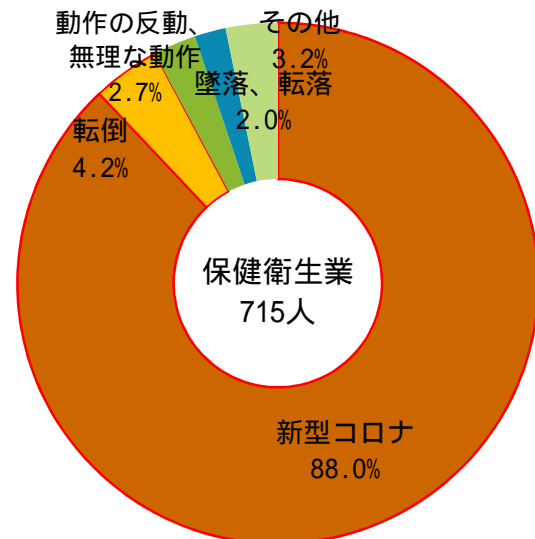
図14 商業死傷者数「事故の型」別発生状況



保健衛生業

事故の型別では、新型コロナウイルス感染症が629人(88.0%)と最も多く、次いで、「転倒」災害が30人(4.2%)、介護作業、荷姿の物などを起因とする腰痛等の「動作の反動・無理な動作」災害は19人(2.7%)、脚立等からの「墜落・転落」災害が14人(2.0%)となっている。

図15 社会福祉施設・病院等死傷者数「事故の型」別発生状況



10 新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害発生状況

新型コロナウイルス感染症は全国的にも拡大し700人がり患した。業種別では、「保健衛生業」が629人(89.9%)、「小売店を含む「商業」が16人(2.3%)、「建設業」が10人(1.4%)、「運輸交通業」が9人(1.3%)、清掃・と畜業が8人(1.1%)となっている。

